

新渡戸稲造の母校、北海道大学が THE インパクトランキング 2022 の総合ランキングにおいて、2015年に国連が採択した「Sustainable Development Goals (SDGs: 持続可能な開発目標)」への取り組みで世界10位(日本国内1位)になったことを契機に、新渡戸の業績をSDGsの17目標にあてはめてみました。100年以上も前から新渡戸が先見性・先進性をもって持続可能な社会構築に大いに貢献してきたことが分かります。複数にまたがるものが多いのですが、どちらかと言えば…との編者判断をお許し下さい。



貧困をなくそう

- ・札幌遠友夜学校設立 (1894~1944)
- ・「糖業改良意見書」(台湾総督府技師、1901)
- ・『世渡りの道』21章 (1912)
- ・『人生雑感』の「慈善の要は自己の心を傾つにあり」。新渡戸は中央慈善協会の理事 (1915)



飢餓をゼロに

- ・『農業本論』(1898)

THE インパクトランキング 2022
北海道大学 世界1位



すべての人に健康と福祉を

- ・東京医療生活協同組合中野総合病院(現新渡戸記念中野総合病院)開設 (1931)



質の高い教育をみんなに

- ・普連土女学校設立助言 (1885、開校 1887、命名 1889)
- ・札幌農学校教授 (1891~1897)
- ・京都帝国大学法科大学教授 (1903)、法学博士 (1906)
- ・第一高等学校校長 (1906~1913)
- ・東京帝国大学農科大学/法科大学教授 (1906)
- ・拓殖大学学監 (1917)
- ・軽井沢通俗夏期大学学長 (1918~。途中、中断されたが現在も続けられている)



ジェンダー平等を実現しよう

- ・英文『武士道』14章「婦人の教育および地位」（1900）
- ・女子英学塾（現津田塾大学）助言者、顧問（1901）
- ・東京女子大学初代学長（1918）
- ・女子経済専門学校（現新渡戸文化学園）初代校長（1928）
- ・『人生雑感』の「婦人の力」「母の力」（1915）
- ・河井道、津田梅子、安井哲、上代タノら、後の女子教育者の最大の援護者



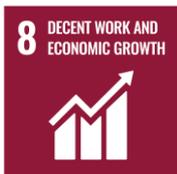
安全な水とトイレを世界中に

- ・『編集余録』（1929～1933）



エネルギーをみんなに。そしてクリーンに

- ・『編集余録』（1929～1933）



働きがいも経済成長も

- ・実業之日本社の顧問となり、『実業之日本』に月2回執筆（1908～）
- ・『編集余録』（1929～1933）



産業と技術革新の基盤を作ろう

- ・『編集余録』（1929～1933）
- ・産業組合中央会岩手支会長（郷里岩手県の産業新興に尽力）（1931～1933）



人や国の不平等をなくそう

- ・『修養』（1911）
- ・『編集余録』（1929～1933）



住み続けられるまちづくりを

- ・講演「地方の話」(1907)
- ・「地方の研究」(雑誌に、1907)
- ・『編集余録』(1929～1933)



つくる責任、つかう責任

- ・『編集余録』(1929～1933)



気候変動に具体的な対策を

- ・『編集余録』(1929～1933)



海の豊かさを守ろう

- ・『編集余録』(1929～1933)

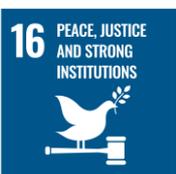
THE インパクトランキング 2022
北海道大学 世界 17 位



陸の豊かさも守ろう

- ・『編集余録』(1929～1933)

THE インパクトランキング 2022
北海道大学 世界 18 位



平和と公正をすべての人に

- ・日米交換教授 (1911～1912)
- ・『人生雑感』の「何時戦争止む乎」「心の平和」(1915)
- ・国際連盟事務次長 (1920～1926)
- ・オーランド諸島帰属問題解決 (新渡戸裁定、1921)
- ・国際知的協力委員会設立に貢献 (現ユネスコの前身) (1922)
- ・太平洋問題調査会理事長 (1929)



パートナーシップで目標を達成しよう

- ・英文『武士道』(1900)
- ・『修養』(1911)
- ・『人生読本』の「人われに代り我人に代りて」(1934)

THE インパクトランキング 2022
北海道大学 世界 12 位